

「(仮称) 豊島環境ミュージアム」構想検討業務調査報告書【概要】

1. 本調査の位置づけ

- 「豊島区環境基本計画」における生物多様性地域戦略策定の検討資料
- 新庁舎屋上庭園等の緑化計画・設計への基礎資料

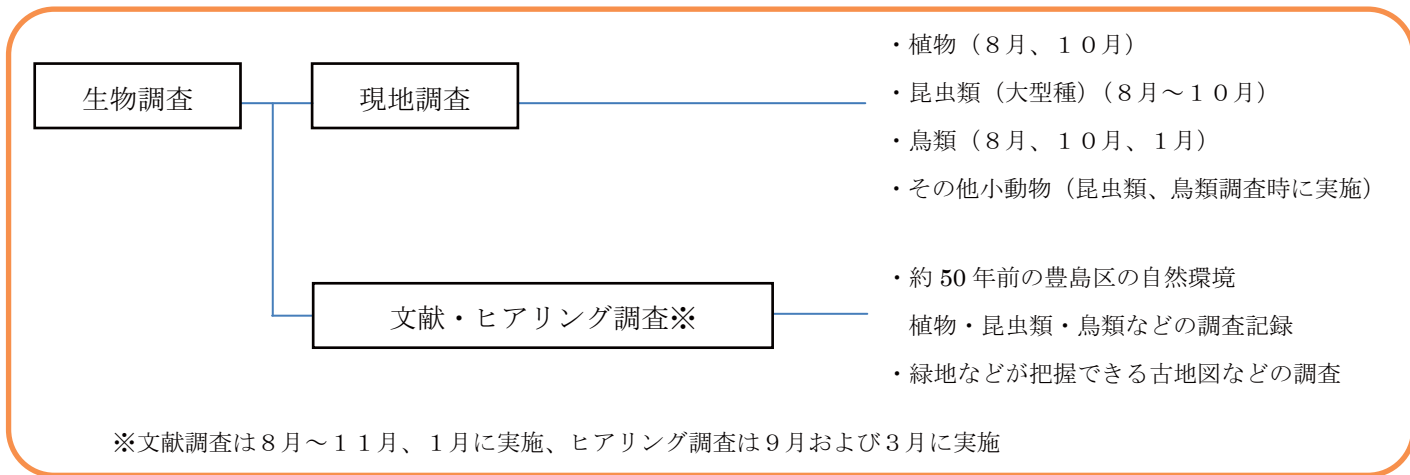
2. 調査期間・調査概要

(1) 調査期間

平成24年8月～平成25年3月

(2) 調査方法

- 豊島区内に現存している自然環境を把握するための「現地調査」
- 過去の豊島区の自然環境を把握するための「文献調査」および「ヒアリング調査」
- ※現地調査は豊島区内のまとまった緑地である、以下の5ヶ所にて実施（別紙参照）
都立雑司ヶ谷霊園、区立目白の森、学習院大学、グリーン大通り、神田川（鳥類のみ）



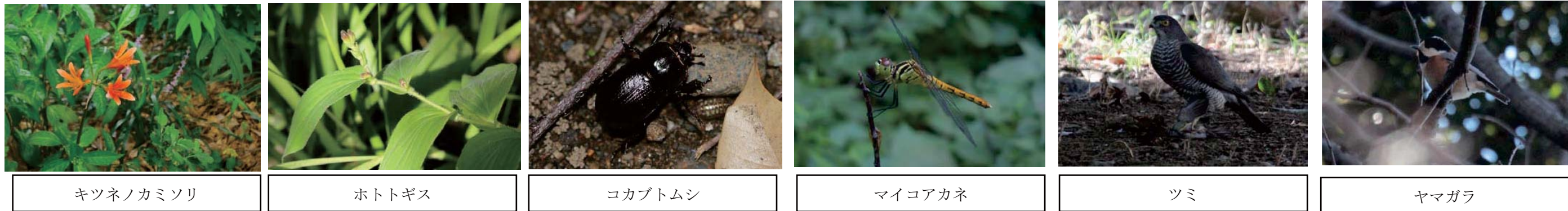
3. 調査結果

(1) 希少種および外来種

| | | 植物 (※1) | 昆虫 | 鳥類 |
|-----|--------------|---|--|--|
| 希少種 | 環境省レッドリスト記載種 | ハクチョウゲ、ニッケイ、フジバカマ、シラン | | |
| | 東京都レッドリスト記載種 | カリガネソウ、コヒロハハナヤスリ、ホトトギス、キツネノカミソリ、イワヒメワラビ、フジバカマ、シナノキ | オオアメンボ、コカブトムシ、マイコアカネ、ヒグラシ、ウスバカミキリ | 夏季 ツミ、カワセミ 秋季 ツミ、イソシギおよびヤマガラ、トビ 冬季 ツミ、モズおよびヤマガラ、ウソ |
| 外来種 | | メマツヨイグサ、トウネズミモチ、アメリカネナシカズラ、ブタクサ、オオブタクサ、コセンダングサ、アメリカオニアザミ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ハルジオン、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、ノハカタカラクサ、メリケンカルカヤ、カモガヤ、メリケンガヤツリ（すべて環境省が定める要注外来生物） | アカボシゴマダラ（要注外来生物）、クロゴキブリ、アオマツムシ、ヨコヅナサシガメ、プラタナスグンバイ、アワダチソウグンバイ | (夏季、秋季、冬季ともに) ドバト、ホンセイインコ |

※1レッドリスト記載種で、コヒロハハナヤスリ、イワヒメワラビ以外は植栽種と考えられることから、希少種には該当しない。

(参考) 東京都レッドリストに記載されている植物・昆虫・鳥類の事例







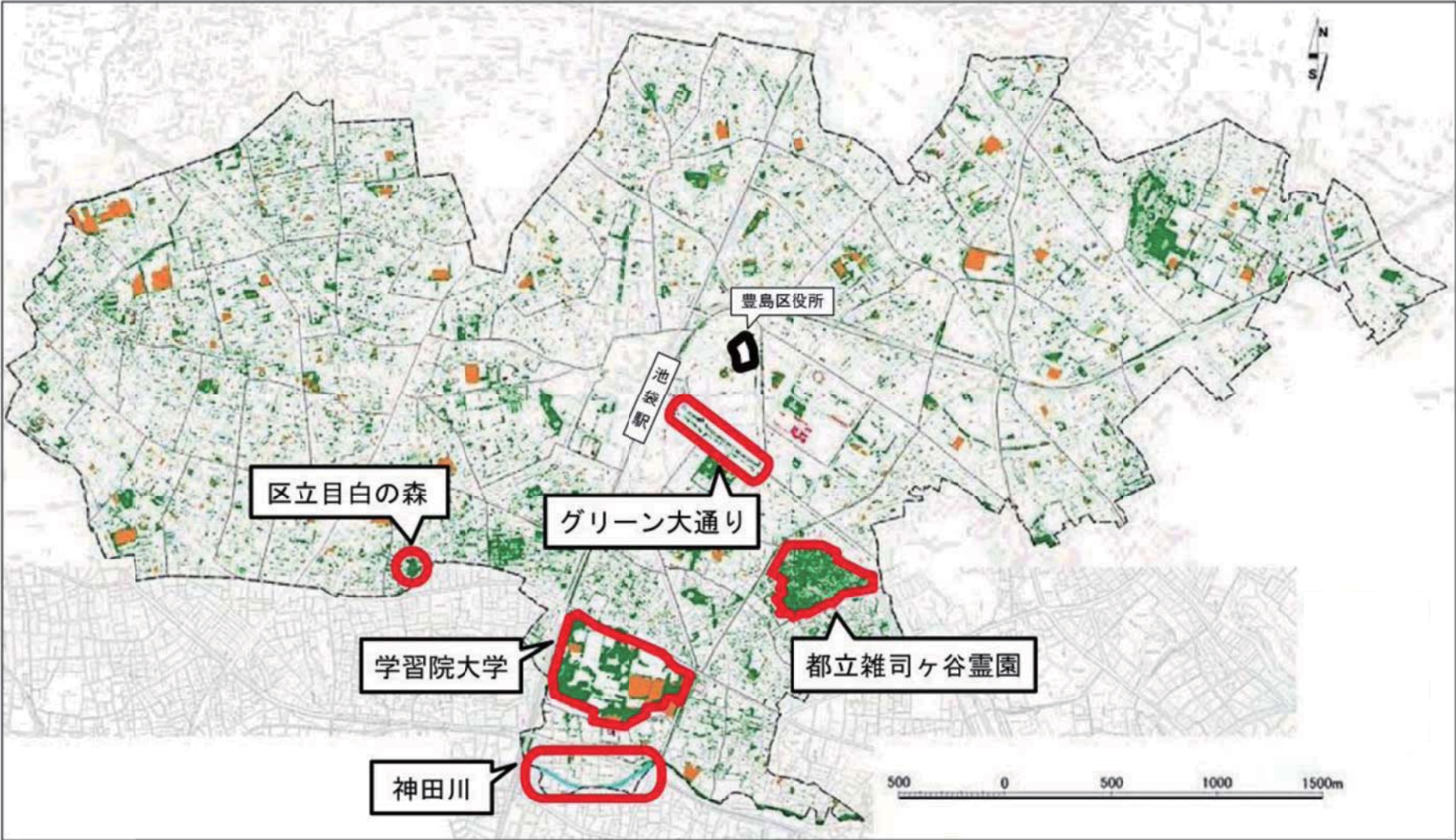
(2) 各地域ごとの確認種数及び主な特徴

| | 植物調査 | 種数 | 昆虫類 (大型種) | 種数 | 鳥類 | 種数 | | |
|----------|--|-----|--|-----|--|----|----|----|
| | | | | | | 夏 | 秋 | 冬 |
| 都立雑司ヶ谷霊園 | 元屋敷林の広大な敷地。シダ植物が生育している個所や草地が発達している個所も確認された。園芸植物などが植栽されている個所も多い。 全体的には緑被率は高いが、開けた明るい空間がほとんどであり、移動能力に限られる昆虫類から見ると緑地はそれぞれ孤立・分断されていると考えられる。 | 238 | バッタがよく目立つ。イボバッタ、ウスイロササキリが確認されたのは雑司ヶ谷霊園のみ。また23区内では少ないシロスジベッコウハナアブが確認された。 | 80 | 1年を通していわゆる都市鳥が多い。 夏季は水鳥としてカルガモ、アオサギ、カワセミの水鳥やツミなどが確認された。 秋季は水鳥としてカルガモ、イソシギ、キセキレイを、渡り途中の種としてカケス、マミチャジナイ、キビタキ、メボソムシクイが確認された。2012年秋から都内の各地で確認されているヒガラも確認された。 | 12 | 17 | 19 |
| 区立目白の森 | 元屋敷林であり、小規模な樹林が発達。草本から高木までの階層構造が発達している。シダ類も豊富に生育している。 | 171 | ウスグモズ、サトキマダラヒカゲ、コクワガタは目白の森のみで確認された。 | 72 | 冬季は水鳥としてカルガモ、コガモが確認された。冬鳥である | 5 | 9 | 10 |
| 学習院大学 | 樹林に囲まれて閉鎖的な空間、樹林から開けて開放的な空間、常緑樹であるスダジイの林、落葉樹であるクヌギやコナラなどの林、草丈の高い草地、草丈の低い草地など、様々な植生タイプが確認された。 | 225 | サトクダマキモドキ、コカブトムシ、ゴマダラチョウなどが確認されている。クズの茂みには、カメムシ類や、コフキゾウムシ、クズノチビタマムシなど特有の昆虫類が見られた。23区内では少ないミツカドコロギも確認された。 | 140 | ウグイス、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シメ、アオジも確認された。2012年冬から都内各地で確認されているキクイタダキ、ヒガラ、ウソも確認された。 | 10 | 14 | 23 |
| グリーン大通り | 様々な樹種が街路樹として植栽されており、高木、低木が多い。また園芸植物が植栽されているコンテナもある。ヤマグワやエノキ、サンショウなど鳥類によって種子が運ばれたと考えられる木本の稚樹・幼樹が確認された。 | 103 | | 15 | | 5 | 4 | 5 |
| 神田川(鳥類) | | | | | | 4 | 5 | 11 |

(3) 調査結果からみられる豊島区の自然環境

豊島区の自然環境は以下の4つに分類される。

| 常緑樹林 (学習院大学) | | 草地 (学習院大学、雑司ヶ谷霊園) | | 落葉樹林 (学習院大学、目白の森、雑司ヶ谷霊園) | | 水辺 (学習院大学、神田川) | |
|---|---|--|---|---|--|---|--|
|  | 学習院大学に豊島区唯一の武蔵野在来の自然樹林が残存している。 常緑樹林ではスダジイやブコウジ群集が見られる。 |  | 草地は区内で減少傾向にある。雑司ヶ谷霊園にはイネ科を中心とした草地が発達し、バッタ類が生息。 学習院大学には樹林内にキツネノマゴ、タデ類が草地として発達し、チョウ類、ハチ類などの蜜源となっている。 |  | 代表的な樹種はクヌギ、コナラ、ケヤキ、ムクノキ。 学習院大学には武蔵野在来の自然樹林が残存し、目白の森、雑司ヶ谷霊園には屋敷林由来の樹林が残存している。 多様な鳥類、昆虫類が利用している。 |  | 学習院大学の「血洗いの池」は、本調査で唯一の池で、カワセミ、トンボ類、アメンボ類が利用している。 市街地化によって神田川以外の河川が暗渠化しているため、豊島区においては水辺が貴重な環境といえる。 |



調査地位置図